

# キュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性

福島県農業総合センター生産環境部 作物保護科

## 1 部門名

野菜－キュウリー病害虫防除

## 2 担当者

宍戸邦明・畠有季

## 3 要旨

キュウリ褐斑病は難防除病害であり、病原菌の薬剤感受性低下が懸念されるため、数種薬剤に対する感受性の検定を行った。

(1) チオファネートメチル、ジエトフェンカルブ、プロシミドン、ボスカリド、アゾキシストロビンの5成分について検定した(表1)。その結果、ジエトフェンカルブに対しては、強耐性菌や中等度耐性菌が 8.9%、ボスカリドに対しては、耐性菌が 39.5%、アゾキシストロビンに対しては、耐性菌が 74.0%であった。また、チオファネートメチルに対しては、すべてが耐性菌であった(表2)。

(2) キュウリ褐斑病菌の主要防除薬剤で感受性の低下が確認されたため、今後、薬剤を使用する際には、「FRAC コード表 (Japan FRAC)」による耐性菌発生リスクや同系統に属する薬剤の確認をし、「QoI 剤及び SDHI 剤使用ガイドライン (日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会)」を参考に防除を行う必要がある。

表1 対象薬剤

薬剤名(商品名)	コード: グループ名(耐性菌発生リスク)	
チオファネートメチル水和剤(トップジンM水和剤)	B1: MBC殺菌剤 (高)	
ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤(ゲッター水和剤*)	B2: N-フェニルカーバメート (高)	B1: MBC殺菌剤 (高)
ジエトフェンカルブ・プロシミドン水和剤(スマブレンド水和剤*)	B2: N-フェニルカーバメート (高)	E3: ジカルボキシミド (中～高)
プロシミドン水和剤(スマレックス水和剤)	E3: ジカルボキシミド (中～高)	
ボスカリド水和剤(カンタスドライフロアブル*)	C2: SDHI (中～高)	
アゾキシストロビン水和剤(アミスター20フロアブル*)	C3: QoI-殺菌剤 (高)	
アゾキシストロビン・TPN水和剤(アミスターOプティフロアブル*)	C3: QoI-殺菌剤 (高)	M: クロロニトリル (低)

コード、グループ名と耐性菌発生リスクは、Japan FRAC ホームページのFRACコード表2015年2月版より抜粋

\* は、キュウリ褐斑病に登録のある薬剤

表2 各薬剤に対するキュウリ褐斑病耐性菌の発生状況

採取地	耐性菌株率(%)				
	チオファネートメチル	ジエトフェンカルブ	プロシミドン	ボスカリド	アゾキシストロビン
伊達市	100	11.9	0	71.4	96.4
二本松市	100	4.2	0	25.4	47.9
須賀川市	100	14.5	0	29.0	65.2
鏡石町	100	0	0	0	84.2
矢吹町	100	0	0	26.7	100
合計	100	8.9	0	39.5	74.0

チオファネートメチルの耐性菌は、高度耐性菌、中等度耐性菌とした

ジエトフェンカルブの耐性菌は、強耐性菌、中等度耐性菌とした

## 4 成果を得た課題名

- 研究期間 平成26年度
- 研究課題名 病害虫の診断・同定
- 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル(日本植物防疫協会)